明琳（メイリン）
お前は俺の
新連載!!!
俺だけの花嫁だ
原作 マチバリ
漫画 高瀬カロ
吸血皇子と生贄花嫁

新連載!!!

悲運な少女を待ち受けるのは
吸血鬼からの寵愛――!?

宮廷ラブファンタジー!

吸血皇子と生贄花嫁

第一話

原作 マチバリ　漫画 高瀬カロ

…はい
天牙様

勘違いしちゃダメ…

私はただの
生贄なんだから

東の大陸 六桜国
あらゆる種族が共存する国
ドン
ドン
私です！明琳です！
鍵を開けてください！
ガチャ

★この漫画はフィクションであり、登場する人物、団体、地名、国名等は実在の名称とは関係ありません。

今日は鶏肉が食べたい気分だったの
悪い？
秋雪…
鶏肉くらいすぐ買ってこれるでしょ
ダラダラ買い物するアンタが悪いのよ
…最近は吸血鬼を恐れてどこも店じまいが早いの
開いてる店を探すだけでも大変で…
食べたいものがあったら用意するから次は早めに教えて？
はあ？

キアアアア
私に指図するつもり!?
あんたが愚図なだけでしょ!
居候の分際でお姉様ぶらないで!

面倒見てやってるのになんて図々しい子
そのまま吸血鬼の餌にでもなってしまえばよかったのに

最悪 明琳のせいで服が汚れたわ
可哀想に秋雪 怪我はないかい？

ぼさっとしてないで早く片づけな！
夕飯の支度も早くしてよね～
…はい
パラ…
あのまま閉め出されなくてよかった…
もし一晩外で過ごすことになっていたら…
キィ…

パタン…

本当に
吸血鬼の餌に
なっていた
かもしれない…

人の血を
生きる糧とする
恐ろしい存在

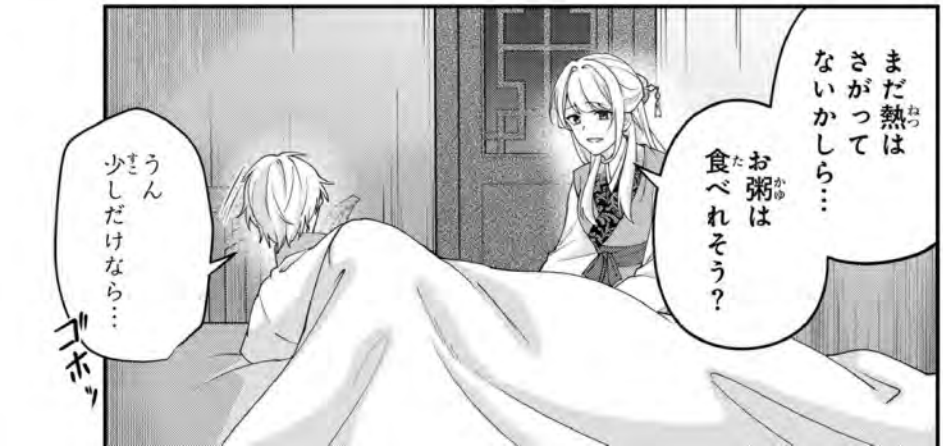
吸血鬼に
襲われる人は
増え続けている

安全な寝床が
あることに
感謝しなければ…

たとえ
どんなに酷い
仕打ちを
受けようと

遅くなってごめんね
耐えるしかないんだ

泊斗
姉…上


まだ熱はさがってないかしら…
お粥は食べれそう？
うん少しだけなら…
ゴホッ

無理しないで
ハァ
ハァ

泊斗
ガタッ
ゴホッ
ゴホッ

ごめ…なさい…
ハァ
ハァ

せっかく作って…くれたのに
いいのよ気にしないでお薬だけでも飲めそう？
…うん
ハー

お水用意するね
泊斗の容態は日に日に悪化するばかり
今の環境では満足な治療は望めない
いったいどうしたらいいの…
私がもっとしっかりしていれば…

こうなったのも
全部…

全部
私のせいだ

私が生まれた
安家は
長い歴史を持つ
名家だった

幼いころに
母を亡くし
文官だった父も
2年前に
重い病を患った

そんなとき
分家である
叔父夫婦と
その娘 秋雪が
私たちを
心配して
家を訪れた

家のこと
父の看病と
真摯に
手を貸してくれる
彼らのことを
私は心から
信頼していた

けれど…
お父様が
亡くなった
あの日――

今日から安家は私たちが管理する
追い出すのは外聞が悪いからね
使用人としておいてあげるわ
野垂れ死にたくなければ精々頑張りなさい
待ってください！
そんな…
叔父様！
叔母様！
彼らは豹変した

幼く病弱な弟に
食事と寝床を
与えるためにも
彼らに
逆らうことが
できず
キャッ
やだ
明琳だったの？
盗っ人か獣でも
入り込んだかと
思っちゃった
そんな見窄らしい
格好じゃ
見間違えられても
仕方ないわよね
気づいたときには
お父様が
残してくれた
家もお金も

お父様が
亡くなってから
泊斗の容態も
悪くなるばかり…

ぎゅ

失いたくない
でも今の私に
何ができるの…？

この子のためにも
嘆いてばかり
いてはダメね
ゴシッ
泊斗のことは
私が絶対に
守るからね
まったく
仕事もしないで
こんなところに…
ガチャ

秋雪…
お父様がお呼びよ
叔父様が？

まったくお客様を迎える準備で忙しいってのに

来客の予定があるの？
コツ…

あぁ…
どうせ
明日(あした)になったら
わかることだし
教(おし)えてあげる
私(わたし)ね
皇族(こうぞく)に
嫁(とつ)ぐことに
なったの

相手はこの国の第三皇子
六天牙様よ
明日顔合わせにわざわざお越しくださるの

第三皇子…
分家の秋雪にそんな高貴な方との縁談が…

そのこ
おめでとう…
はあ…

痛っ……！
〝おめでとう〟だって？
何を上から…
私は皇子妃に選ばれたの！
本家に生まれただけでチヤホヤされてきたあんたとは違う
二度とそんな偉そうな口叩くんじゃないよ！

グイッ
あんたは一生使用人として生きていくの
二度と安家のお嬢様に戻れると思わないで
もし逆らうなら…
弟もろとも吸血鬼の餌にしてあげるわ

返事は？
…はい
申し訳ございません…
名家の娘としてチヤホヤされてきた明琳の
こんな無様な姿が見れる日が来るなんて
くすっ

最高に
いい気分だわ
以後
気をつけなさい
お父様が
離れの納屋で
あんたを
待ってるわ
さっさと
行って
……

ヨロ…

秋雪が
皇族に嫁ぐ…
もしかしたら
今より
酷い扱いを受ける
かもしれない

追い出されたって
おかしくない
そうなれば
幼い弟と二人
この国で安全に
暮らして
いけるだろうか

助けを求めることも
逃げることもできない
ここが地獄だとわかっているのに
家族の思い出がある
この家を捨てることができない

それにしても
叔父様は
なんの用かしら…

ブルッ

キィ…
叔父様？
中にはいないみたいだけど…
？

ガッ
ドラ

ククク…
キャアア
カラ
カラッ
うっ…
ケホッ
痛い…
何が
起こったの？
……ッ
まったく
弟も連れて
来いと言って
おったのに…
！

叔父様
いいか 明琳
明日 大切なお客様がお見えになる

見窄らしいお前をお客様に見せるわけにはいかないからな
しばらくここで大人しくしていろ

待ってくださ…っ
!?

足が…
動かない
待ってください
叔父様！
せめて傷の
手当てを
させてください
人目に
触れないよう
大人しくして
おきますから！
そんな怪我
唾でも
つけときゃ
治るだろ

明日の夜には
出してやる
それまで
生きて
いられれば…な
バタン
いやあ
開けて
ください！
叔父様！
お願い
します！
叔父様！
誰か…
誰か
ここから
出して――…！

そろそろ
皇子(おうじ)が
お見(み)えになるぞ
準備(じゅんび)は
できたか？
明・琳・
はい
叔父様(おじさま)

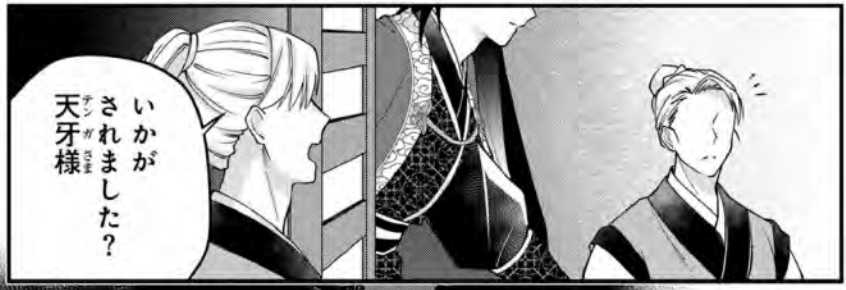
明琳(メイリン)として
うまく皇族(こうぞく)に
とりいるんだぞ？
粗相(そそう)のない
ようにね
もちろんです
ニィィ…
天牙(テンガ)様
着(つ)きましたよ
安家(アンけ)に
ございます

花嫁など
興味ない
破談にしろ

先に花嫁の
様子を見てきます
天牙様も絶対
来てくださいよ

はぁ…
そういう
わけには
いきません

パリーン
獏のやつ
勝手に縁談など
組みおって
俺に
花嫁など…


いかが
されました？
天牙様

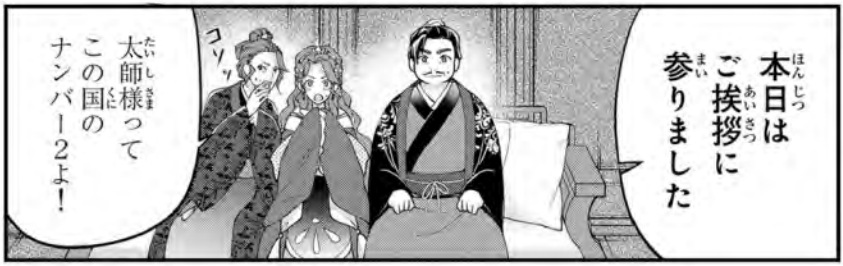
血の
匂いがする

ハーッ
ハーッ
あれから…
どれくらい
時間が経ったのかしら…
ハーッ
ハーッ
もう声すらでない…
ズキーン
だんだん
足の感覚も
なくなってきた
大切な弟も守れず
家もお金も
何もかも失って
私はここで
死んでしまうの…？

ガタッ
赤い瞳…

あなたは…誰？

この国の太師をしております
獏と申します


本日はご挨拶に参りました
コソッ
太師様ってこの国のナンバー2よ！

わざわざお越しくださりありがとうございます

私が安家が娘

安 明琳と
申します
この度は
皇子の花嫁に
選んでいただき
大変
光栄に思います

明琳は
礼儀作法は
もちろん
聡明で
気立てのいい
娘だと巷でも
評判で

皇族に嫁いでも
恥ずかしくない
自慢の姪なんです
おやめください
叔父様
安家の長女として
当然の振る舞いを
心がけている
だけです

とても品のあるお嬢さんだ
きっと皇子も気に入られるだろう
ﾆﾔﾆﾔ
恐れ入ります

皇族だからと緊張していたけど
私が明琳だと疑いもしてないわ

ガチャ
獏はここか？

これなら楽勝ね

ようやく
お越しください
ましたか
六桜国
第三皇子
六 天牙様
この方が
私の
縁談の相手！
ゴクリ

怪我人がいた
!?

なんで明琳がいるのよ！
本当に目障りな子

なんて汚らわしい盗っ人よ！
タッ

皇子離れてください！

早く追い出して叔父様！
ぐいっ
この不届き者め！
や…めてっ
早く出ていきなさい
クスクス
あの人に助けてもらったところで
この家に私の話を聞いてくれる人はいない…
私の声は

誰にも届かない…
待て
お皇子？
ズイ
トサ

こいつは
すでに
虫の息だ
追い出した
ところで
長くは
持たないだろう
すする…
ならば
この者の血…

俺が
貰っても
構わんな？

いやあああ！
化け物！
まさか吸血鬼!?
なぜ皇子が…
吸血鬼!?
お父様 私を
そんな化け物に
嫁がせようと
してたの!?

違うんだ秋雪！
私も今知って…っ
秋雪…？
それに
〝お父様〟だと？
ハッ

明琳の父君は
亡くなったと
聞いていたが？

えっと…
これは…

そういえば
安家の分家に
娘がいたはず…
分家の娘…

…そういうことか
だから鍵のかかった納屋に閉じ込められていたわけだ
ギク
つまり…
お前が安明琳

俺の花嫁だな？